



# 2010年度(2011年3月期) 第4四半期 決算説明会

2011年 4月28日

**セイコーエプソン株式会社**

## ■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

---

本資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きくかけ離れた結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および諸外国の経済情勢、市場における新製品・新サービスの開発・提供と需要動向、価格競争、他社との競争、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。今回の東日本大震災による影響については、現時点で入手可能な情報に基づき反映しておりますが、予測不可能な要因により変動する可能性があります。なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

## ■ 本説明資料における表示方法

---

数値： 表示単位未満を切り捨て

比率： 千円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

## 開示セグメントの変更について

### 【2010年度から】

---

- 「マネジメントアプローチ」の考え方にに基づき、2009年度まで各セグメントならびに各事業に売上高比率で配賦をしていた本社費用を2010年度からは「全社セグメント」に集約
- 「その他の事業」セグメントで計上していた、グループ向けサービスを目的とした子会社は機能を各事業に移管
- 2010年度実績の説明において、前年度を比較対象とする場合は、2009年度のセグメント損益もあわせて補正

### 【2011年度から】

---

- ものづくり基盤の再構築・強化を迅速に実行することを狙いとして、「電子デバイス事業セグメント」と「精密機器事業セグメント」を統合し、「デバイス精密機器事業セグメント」とする
- 「中・小型液晶ディスプレイ」のオペレーション終結を受け、2011年度以降発生する損益については「その他」に集約
- 2011年度予想の説明において、前年度を比較対象とする場合は、2010年度のセグメント損益もあわせて補正

## 1. 概要

## 2. 詳細

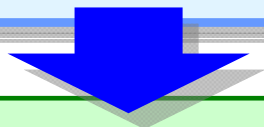
# 決算ハイライト（通期）



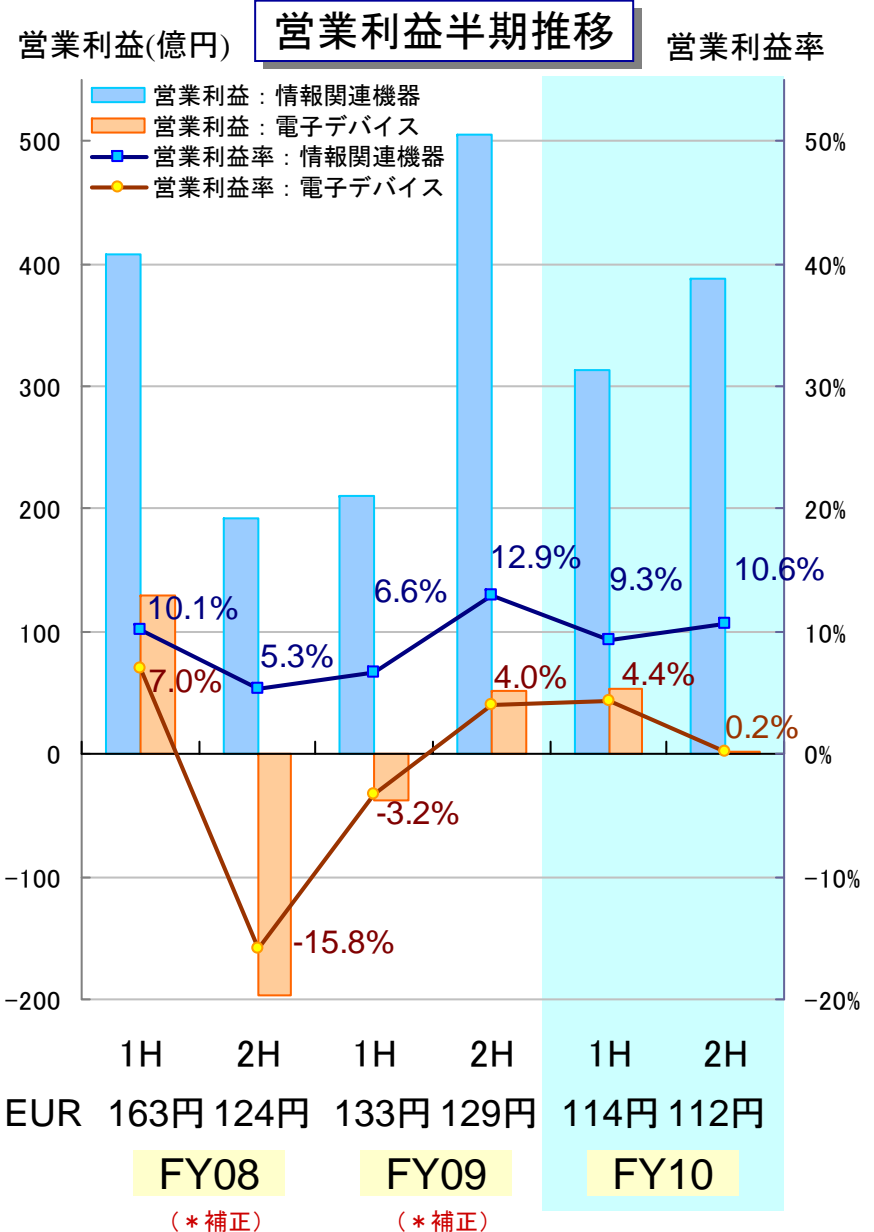
	2009年度		2010年度				増減額 / 増減率	
	実績	%	1/28予想	%	実績	%	前期実績比	1/28予想比
(億円)								
売上高	9,853	-	9,800	-	9,736	-	-116 -1.2%	-63 -0.6%
営業利益	182	1.8%	350	3.6%	327	3.4%	+144 +79.5%	-22 -6.5%
経常利益	138	1.4%	340	3.5%	311	3.2%	+172 +124.7%	-28 -8.3%
税引前利益	△7	-0.1%	220	2.2%	153	1.6%	+161 -	-66 -30.1%
当期純利益	△197	-2.0%	100	1.0%	102	1.1%	+300 -	+2 +2.4%
EPS	△99.34 円		50.05 円		51.25 円			
換算 レート	USD	92.85 円	85.00 円		85.72 円			
	EUR	131.15 円	112.00 円		113.12 円			

# 2010年度 決算のポイント

- 上期はビジネス向け需要の回復、好調なデバイス需要、原価改善の効果などにより、円高による為替影響をカバーして損益を改善
- 下期は引き続き円高で推移する中、一部で震災の影響を受けたものの、情報関連機器は新商品のタイムリーな市場投入、継続的な事業体質強化の努力により、利益創出。
- 中・小型液晶ディスプレイ事業の構造改革を完遂
- 来期以降の新たな成長軌道確立に向けた仕込みを着実に実施



当期純利益ブレークイーブン以上を  
**達成**



## 情報関連機器セグメント

- ▶ IJP : ビジネス向けラインナップの大幅拡充、エマージング市場向け製品の投入。商業・産業分野向け製品の販売開始。  
インドネシア、フィリピンの生産能力増強への取り組み。
- ▶ BS : 中国における徴税需要をSIDMで継続的に獲得。  
先進国・エマージング市場のPOS関連製品の確実な取り込み。
- ▶ プロジェクター : ビジネス・教育市場、ホーム市場向けラインナップの拡充。  
インタラクティブ機能など付加価値分野の拡大。  
フィリピンの生産体制の確立。

## 電子デバイスセグメント

- ▶ 水晶・半導体 : マイクロデバイス事業強化に向けたマネジメント体制の整備。  
水晶デバイスの生産能力拡大。  
半導体はEPDコントローラーなど強みを活かせる分野の開拓。
- ▶ HTTPS : 社内外の完成品需要の取り込み、新規需要の開拓。

# 2011年度 業績予想



(億円)	2010年度		2011年度		増減	
	通期実績	%	通期予想	%	増減額	増減率
売上高	9,736	-	9,700	-	-36	-0.4%
営業利益	327	3.4%	430	4.4%	+102	+31.5%
経常利益	311	3.2%	400	4.1%	+88	+28.3%
税引前利益	153	1.6%	300	3.1%	+146	+95.0%
当期純利益	102	1.1%	170	1.8%	+67	+66.0%
EPS	51.25円		85.09円			
換 算 レ ー ト	USD	85.72円	80.00円			
	EUR	113.12円	115.00円			

2011年度の業績予想については、震災に起因する以下の業績変動要因のうち業績予想公表日時点で把握可能な影響を加味している。

- ① 震災により直接被害を受けた生産設備における生産ロスの影響
- ② 原材料・部品等の調達リスクおよびそれに伴う生産変動リスク
- ③ 消費電力量削減に伴う生産設備稼働ロスによるリスク
- ④ 震災の影響に伴う景気変動や最終顧客の需要変動

以上の要因のほか、今回の震災に伴う現時点では予測不可能な要因により業績が変動する可能性がある。

なお、これらの変動要因のうち業績悪化のリスクに対してはその影響を最小限に止めるための対応施策を反映し業績予想を策定している。



# 2011年度の位置づけ

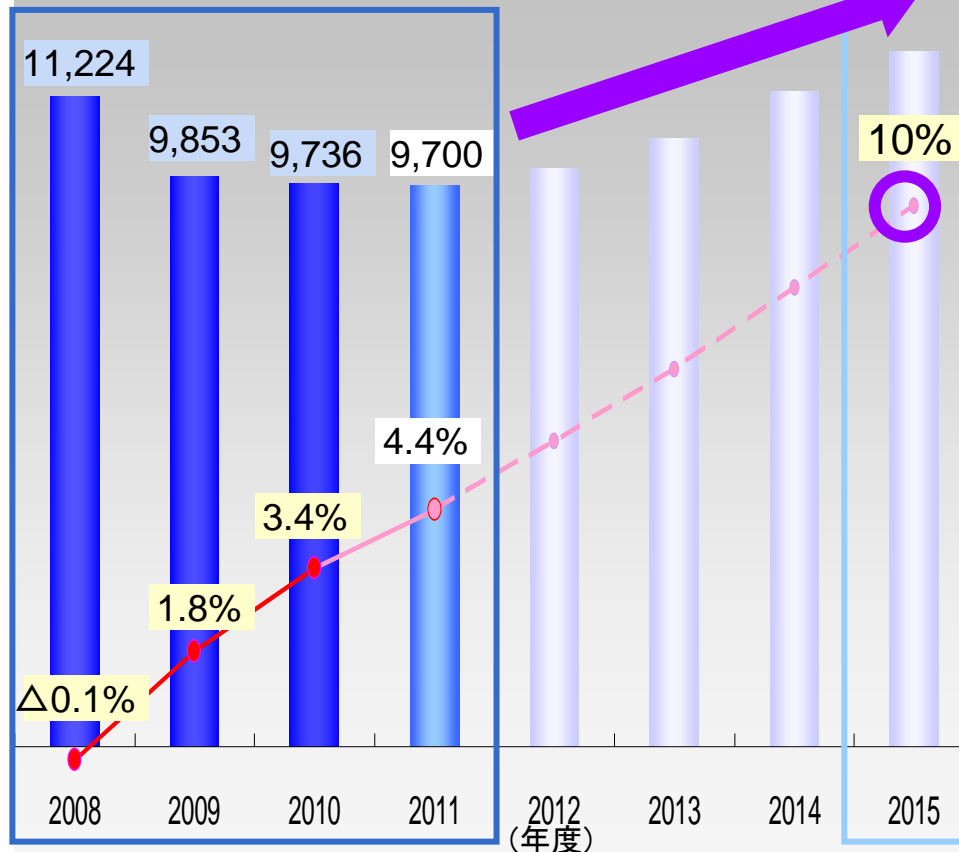
## 長期ビジョン「SE15」前期中期経営計画(2009～2011年度)

SE15 業績目標  
(2015年度)

ROS 10%、ROE 10%以上  
(売上高成長を前提として)

SE15 前期中期経営計画  
(2009～2011年度)

棒グラフ : 売上高(億円)  
折線グラフ : 営業利益率



2009年度

- ✓ 経常利益ブレークイーブン
- ✓ 長期ビジョンの布石となる事業基盤を再構築

2010年度

- ✓ 当期利益ブレークイーブン以上
- ✓ 確実に利益が確保できる企業体質の定着

2011年度

- ✓ 長期ビジョン「SE15」実現に向けた新たな成長軌道を確立

## 被害を受けた主な生産拠点の状況

1. エプソンアトミックス(金属粉末、金属射出成形部品、人工水晶)
  - ✓ 射出成形部品、人工水晶は生産再開
  - ✓ 金属粉末は4月28日から生産再開
2. 秋田エプソン(プリンター部品、水晶デバイス、超精密部品)
  - ✓ 全ての製品の生産再開
3. 酒田事業所/東北エプソン(半導体、インクジェットプリンター部品)
  - ✓ インクジェットプリンター部品、半導体の一部工程は生産再開
  - ✓ 今後も電力供給状況、材料調達状況を確認しながら生産継続
4. エプソントヨコム福島事業所(水晶デバイス)
  - ✓ 事業所を閉鎖中

## その他の事業への影響

- ◆ 部品調達の状況により、一部商品の生産に影響が出る可能性
- ◆ 代替部品の調達や技術的な施策対応などにより、影響を最小限に

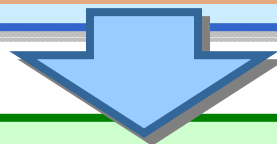
## 「SE15」の実現に向けた経営戦略に揺るぎはない

- SE15で示す成長の端緒につき、新たな成長に向けた流れをつかむ
- 震災の影響を見極め、あらゆる努力により挽回する

インクジェットプリンター：お客様セグメントに最適な商品を提供するためのラインナップの拡充

プロジェクター：No.1ポジションならでの、豊富なラインナップの提供

マイクロデバイス：省・小・精のDNAをベースに強いデバイスを提供



SE15 後期中期経営計画(2012年度～2014年度)に向けてお客様価値の創造を「究めて極める」

## 1. 概要

## 2. 詳細

1) 2010年度 決算

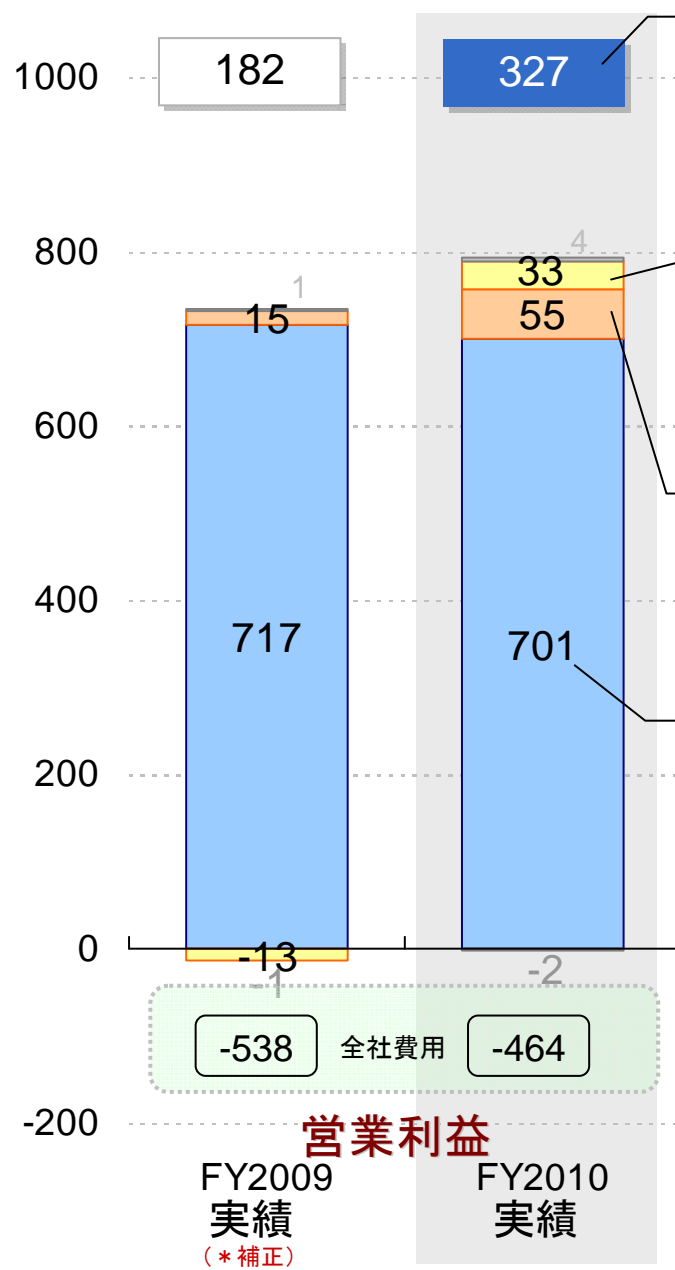
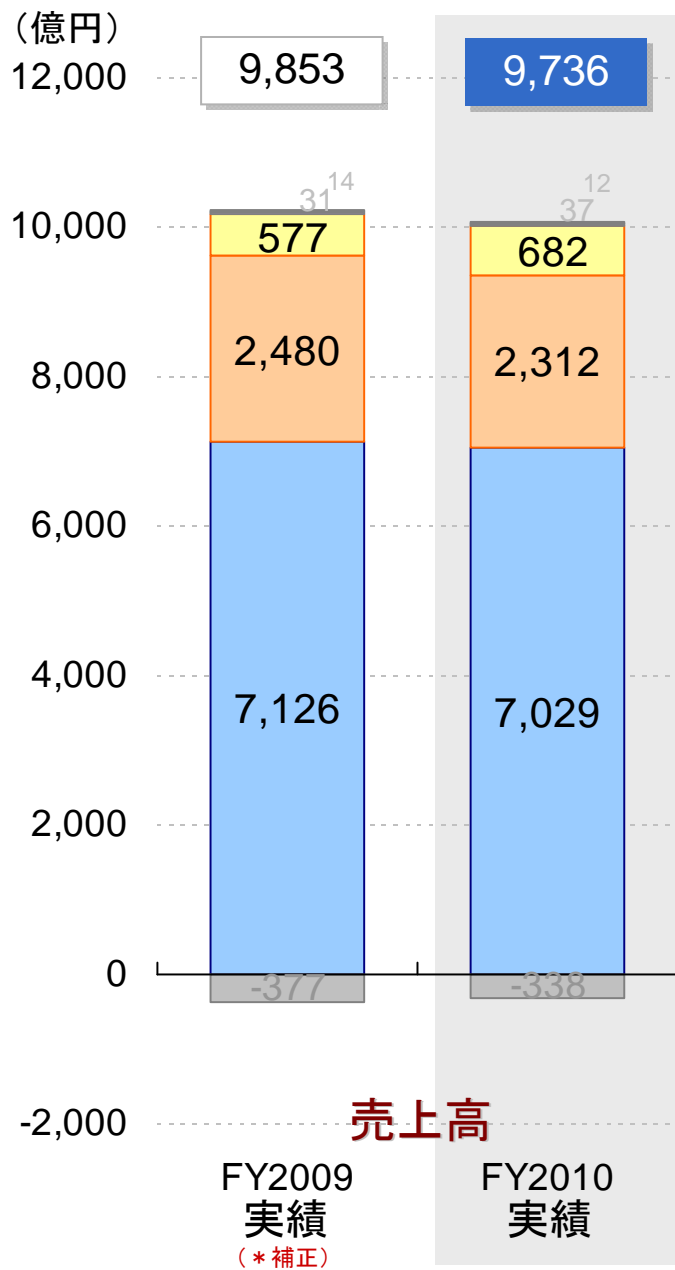
2) 2011年度 業績予想

# 決算ハイライト（通期）



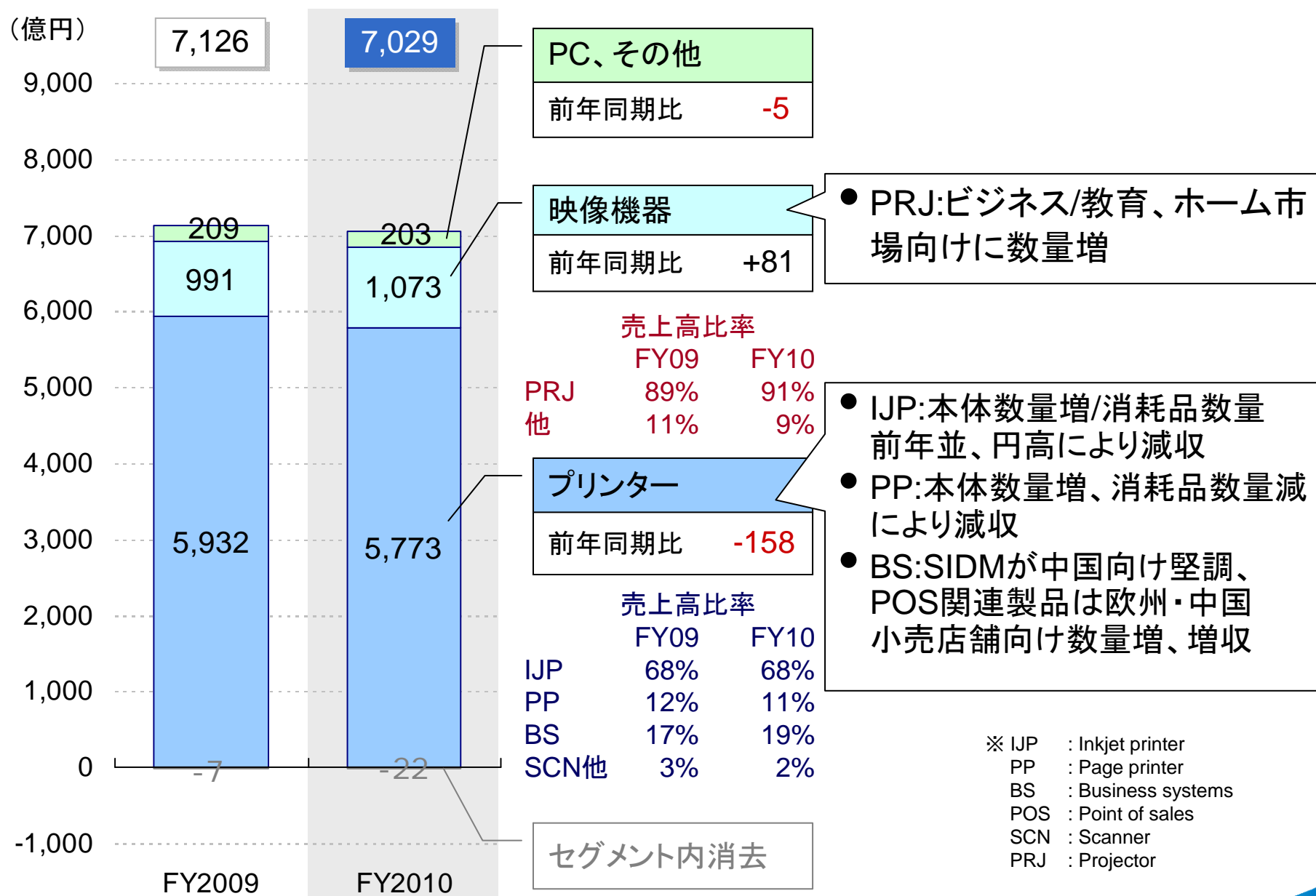
	2009年度		2010年度				増減額 / 増減率	
	実績	%	1/28予想	%	実績	%	前期実績比	1/28予想比
(億円)								
売上高	9,853	-	9,800	-	9,736	-	-116 -1.2%	-63 -0.6%
営業利益	182	1.8%	350	3.6%	327	3.4%	+144 +79.5%	-22 -6.5%
経常利益	138	1.4%	340	3.5%	311	3.2%	+172 +124.7%	-28 -8.3%
税引前利益	△7	-0.1%	220	2.2%	153	1.6%	+161 -	-66 -30.1%
当期純利益	△197	-2.0%	100	1.0%	102	1.1%	+300 -	+2 +2.4%
EPS	△99.34 円		50.05 円		51.25 円			
換算 レート	USD	92.85 円	85.00 円		85.72 円			
	EUR	131.15 円	112.00 円		113.12 円			

# 2010年度業績▶事業セグメント別



<b>連結合計</b>	
売上高	-116
営業利益	+144
<b>精密機器</b>	
売上高	+105
営業利益	+46
<b>電子デバイス</b>	
売上高	-167
営業利益	+40
<b>情報関連機器</b>	
売上高	-97
営業利益	-15

# 売上高比較(通期) ▶情報関連機器セグメント

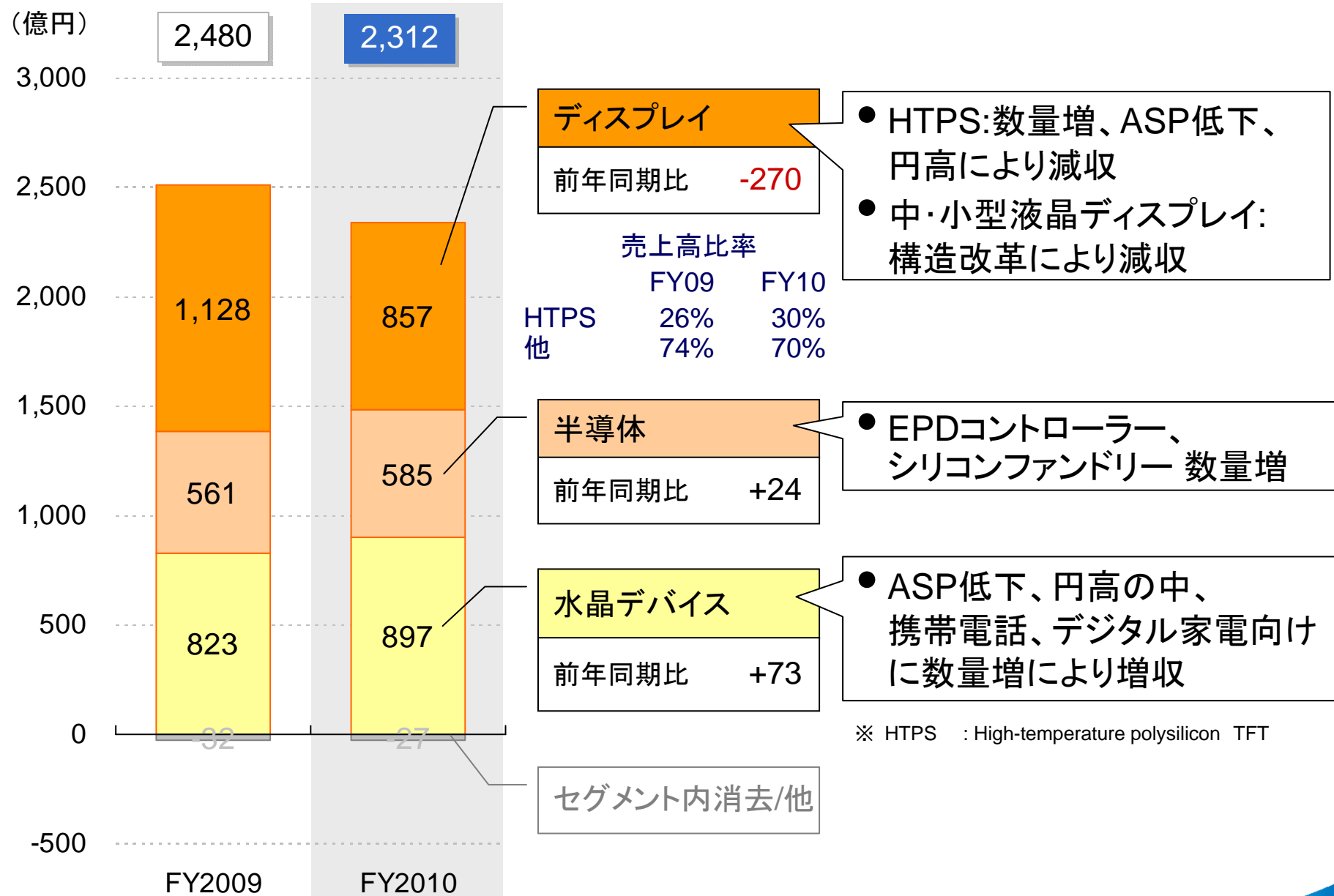


● PRJ:ビジネス/教育、ホーム市場向けに数量増

● IJP:本体数量増/消耗品数量前年並、円高により減収  
 ● PP:本体数量増、消耗品数量減により減収  
 ● BS:SIDMが中国向け堅調、POS関連製品は欧州・中国小売店舗向け数量増、増収

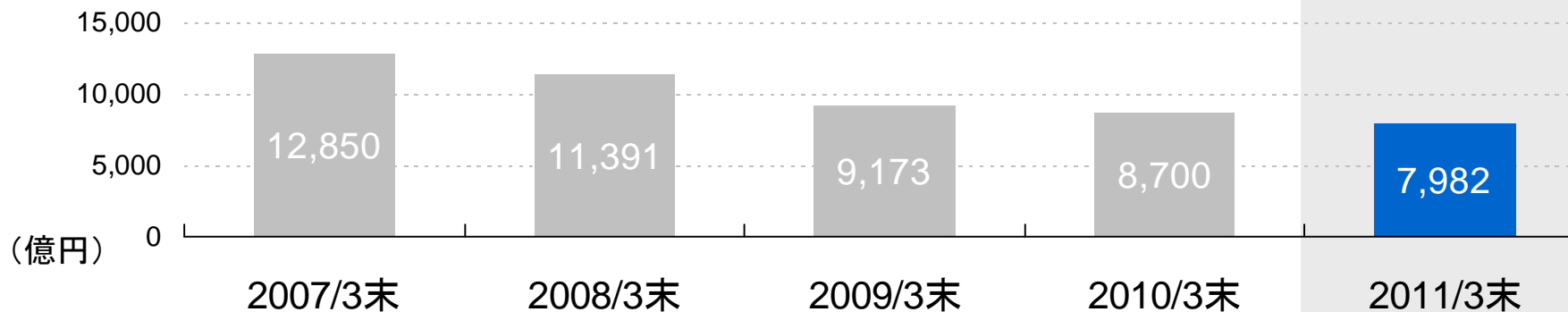


# 売上高比較(通期) ▶ 電子デバイスセグメント

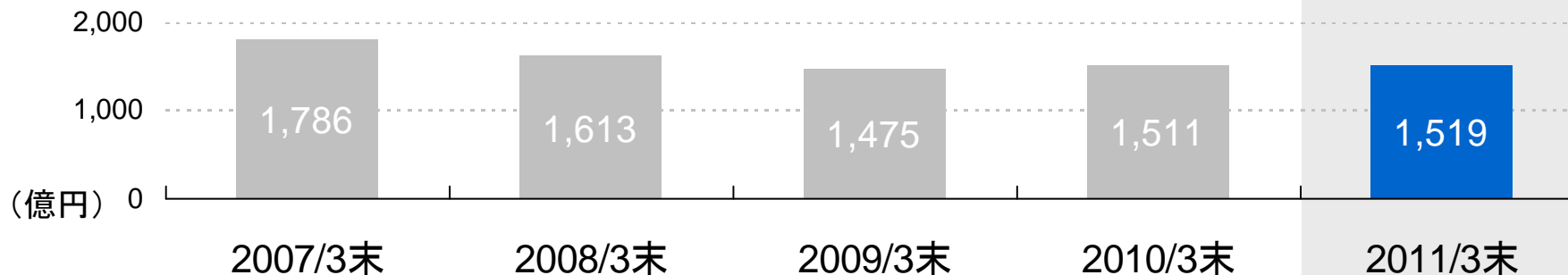


# 貸借対照表主要項目推移

## 総資産

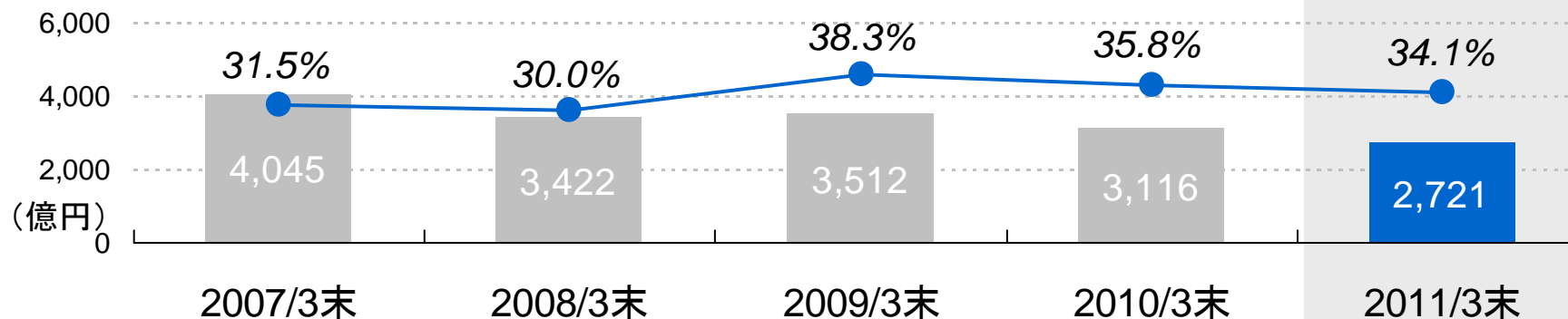


## たな卸資産

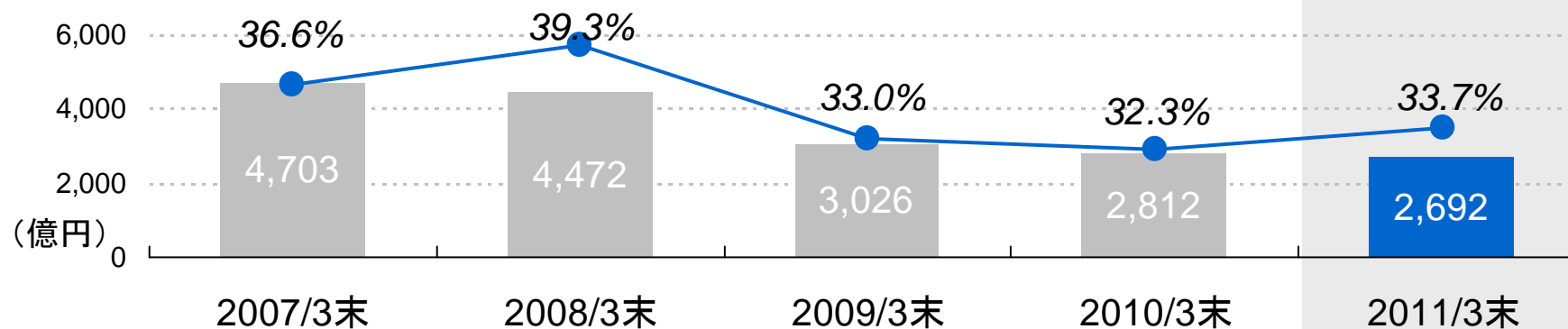


# 貸借対照表主要項目推移

## 有利子負債・有利子負債依存度



## 自己資本・自己資本比率



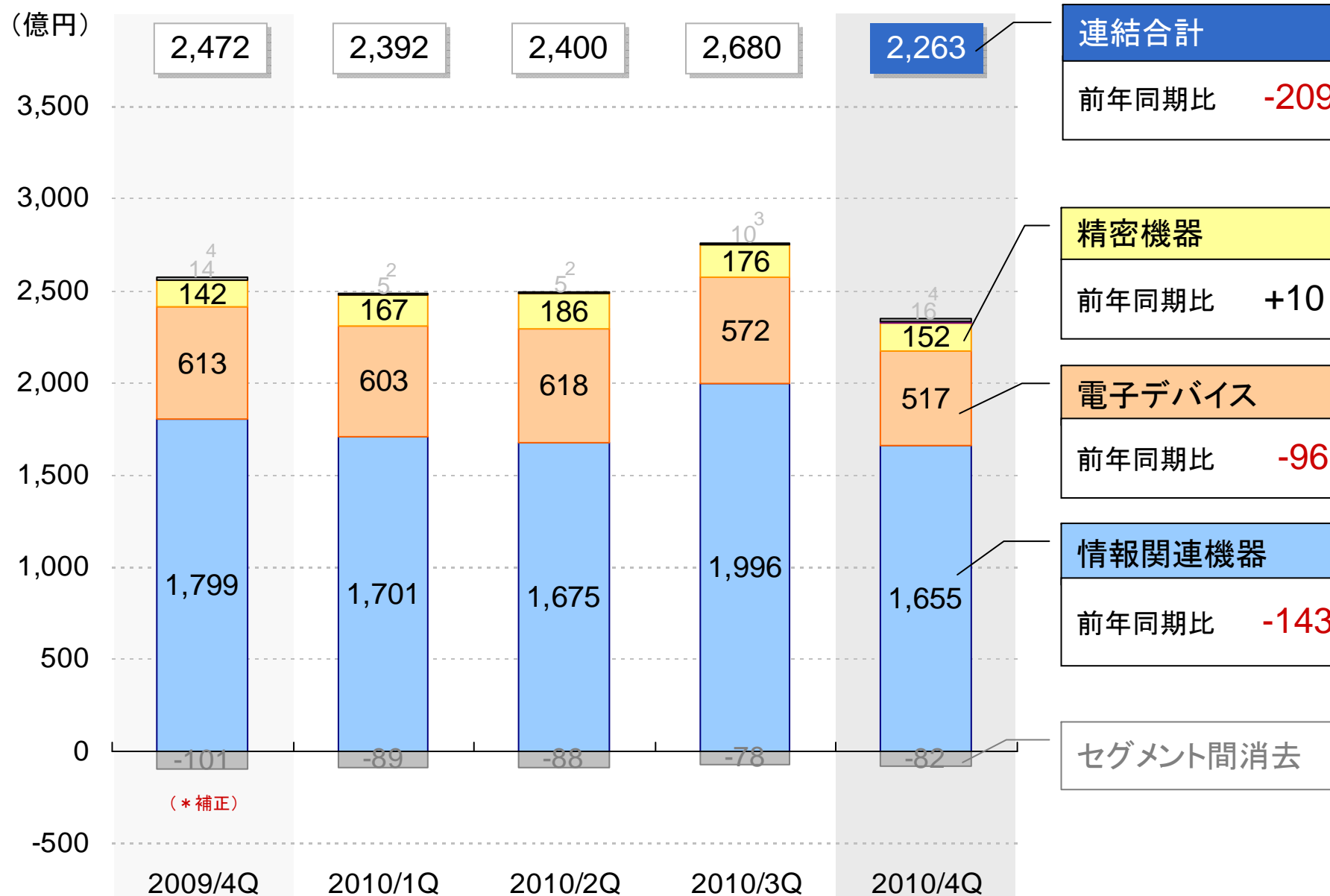
\*有利子負債=2008年度からリース負債を含む

\*自己資本=純資産合計-少数株主持分

# 決算ハイライト（第4四半期決算）

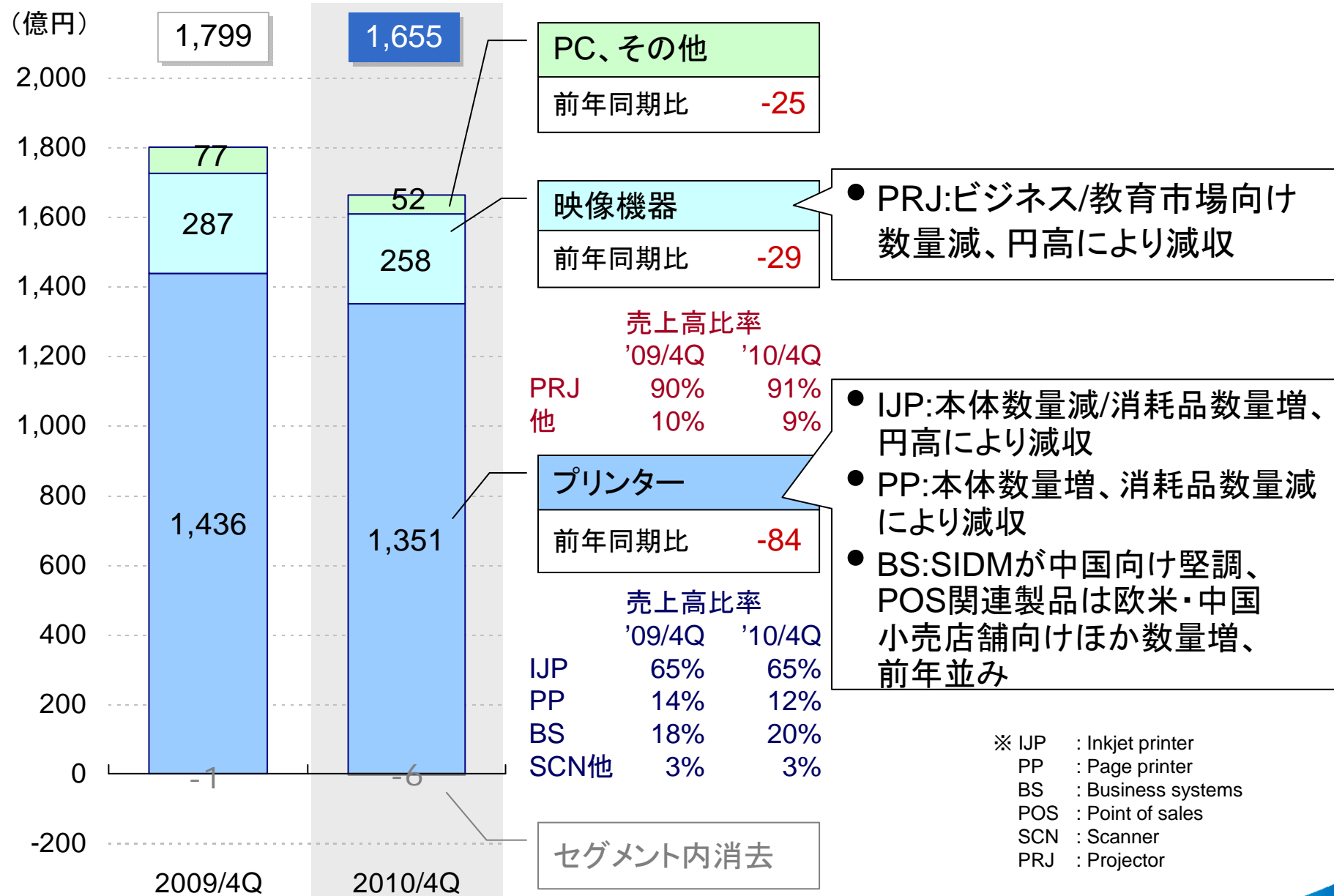
(億円)	2009年度		2010年度		増減	
	4Q実績	%	4Q実績	%	増減額	増減率
売上高	2,472	-	2,263	-	-209	-8.5%
営業利益	△39	-1.6%	△11	-0.5%	+27	-
経常利益	△25	-1.0%	△13	-0.6%	+12	-
税引前利益	△82	-3.4%	△108	-4.8%	-25	-
四半期純利益	△150	-6.1%	△67	-3.0%	+82	-
EPS	△75.33円		△33.86円			
換算 レート	USD	90.70円	82.34円			
	EUR	125.62円	112.57円			

# 四半期売上高推移 ▶ 事業セグメント別

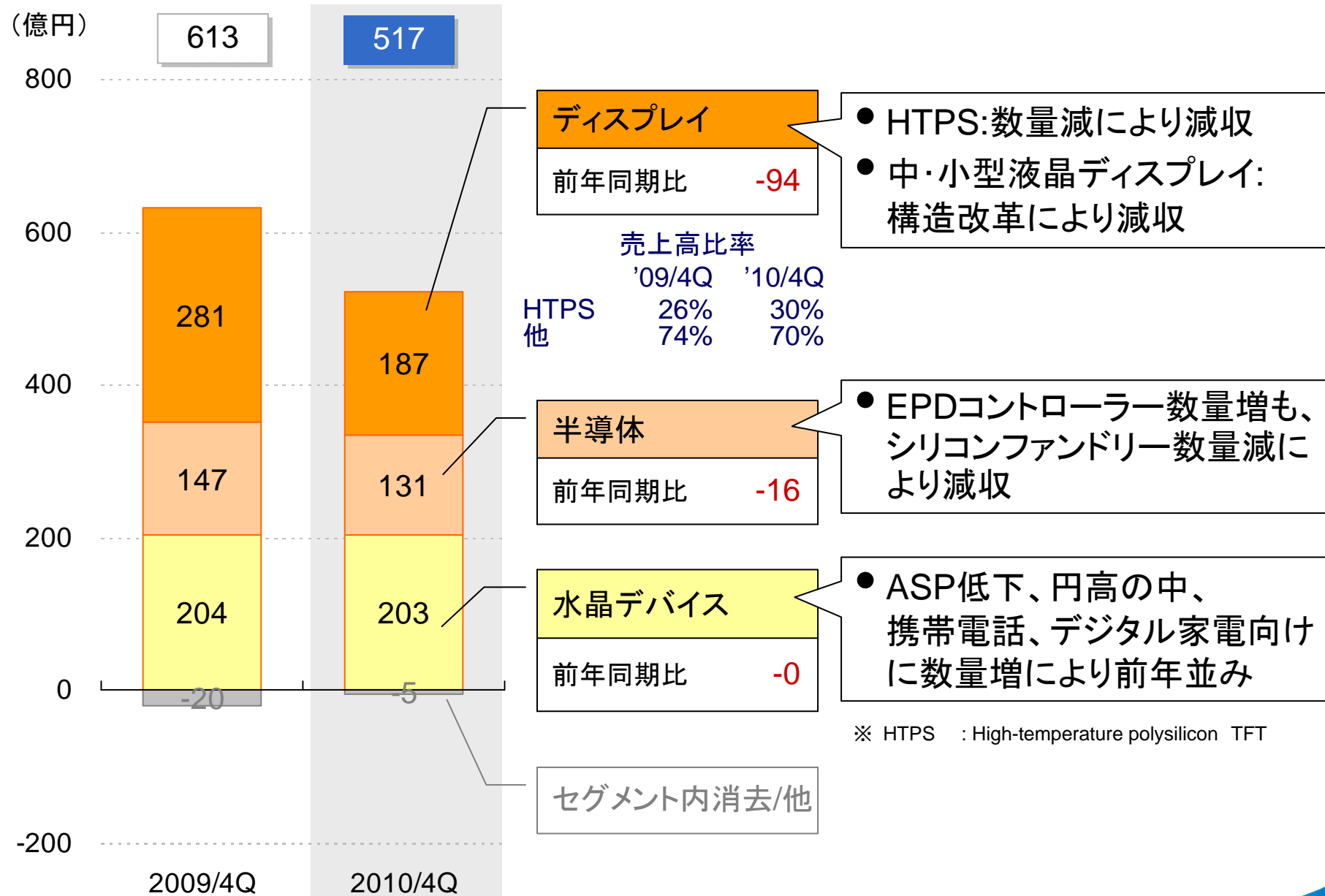


(\* 補正)

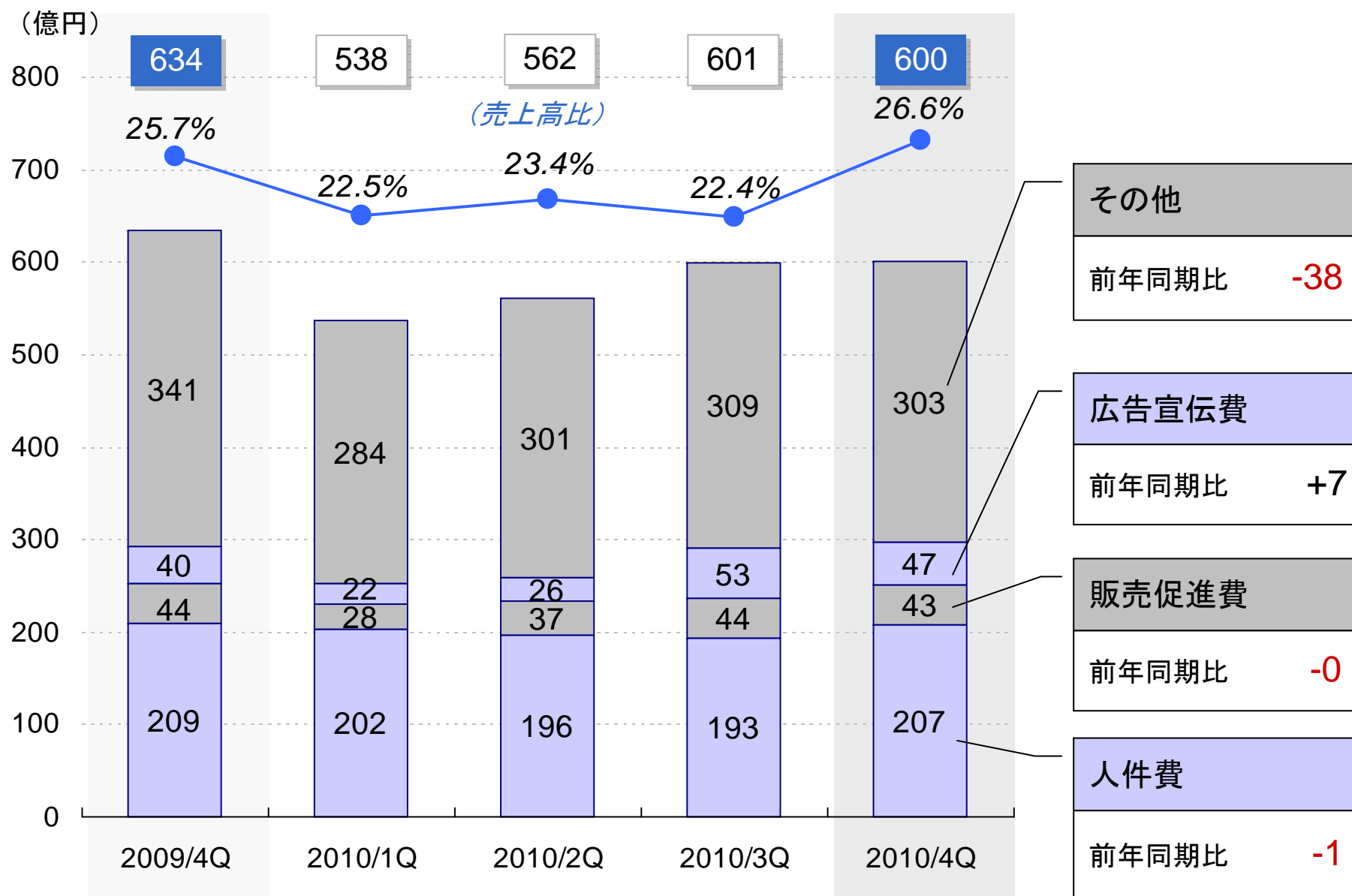
# 四半期売上高比較 ▶ 情報関連機器セグメント



# 四半期売上高比較 ▶ 電子デバイスセグメント

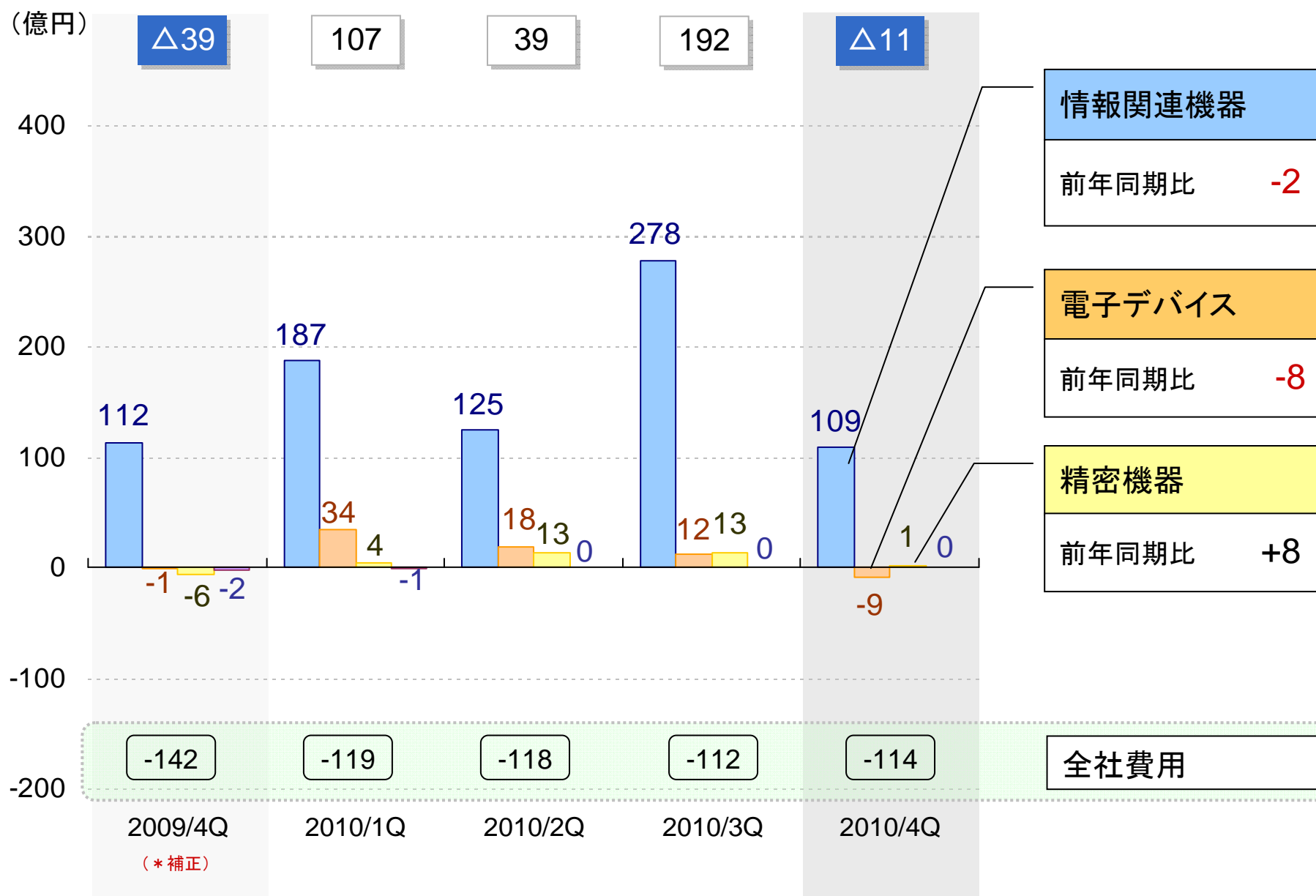


# 四半期販売費及び一般管理費推移



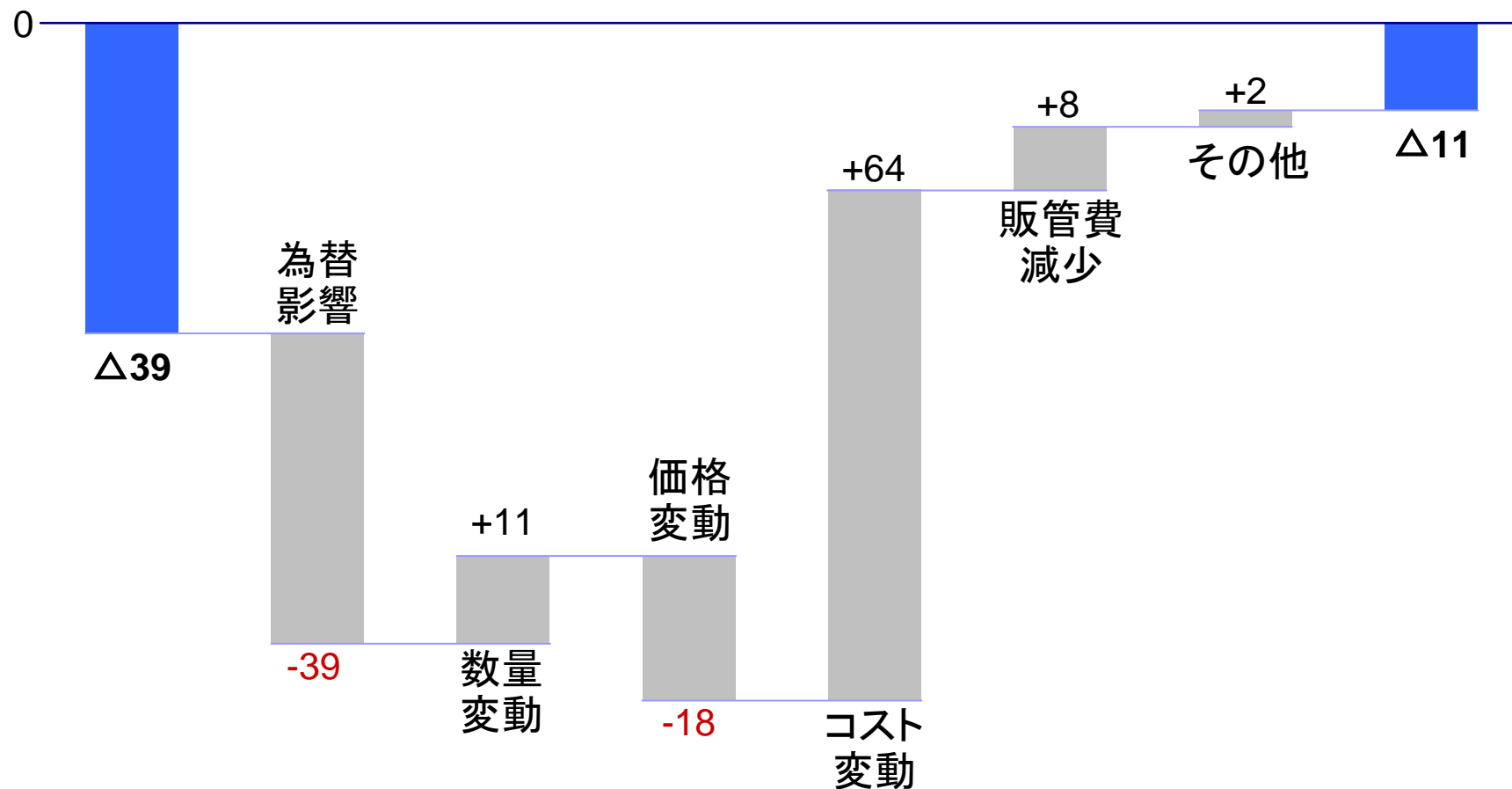


# 四半期営業利益推移 ▶ 事業セグメント別



# 営業利益増減要因分析

(億円)



営業利益

2009/4Q

27億円増益

営業利益

2010/4Q

\* 2009年度損益については、旧基準による損益を使用

1) 2010年度 決算

2) 2011年度 業績予想

**\*ご注意**

2011年度業績より、開示セグメントを変更しました。  
変更内容につきましては、スライド2をご確認ください。

# 2011年度 業績予想



(億円)	2010年度		2011年度		増減	
	通期実績	%	通期予想	%	増減額	増減率
売上高	9,736	-	9,700	-	-36	-0.4%
営業利益	327	3.4%	430	4.4%	+102	+31.5%
経常利益	311	3.2%	400	4.1%	+88	+28.3%
税引前利益	153	1.6%	300	3.1%	+146	+95.0%
当期純利益	102	1.1%	170	1.8%	+67	+66.0%
EPS	51.25円		85.09円			
換算 レート	USD	85.72円	80.00円			
	EUR	113.12円	115.00円			

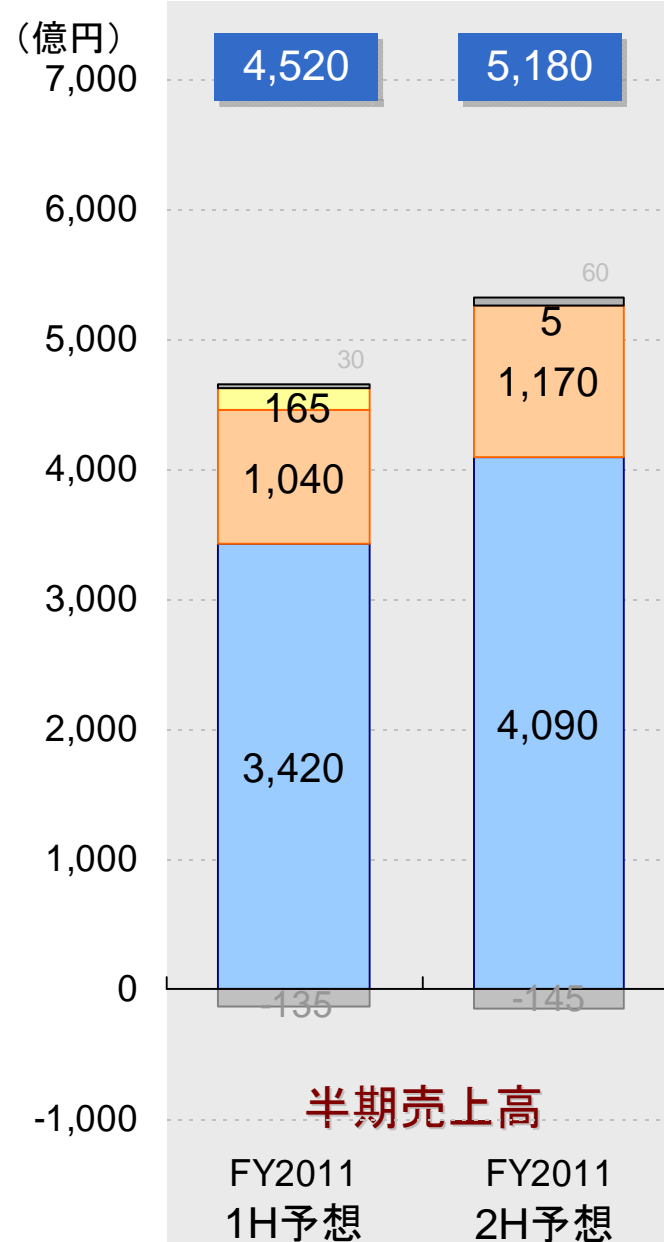
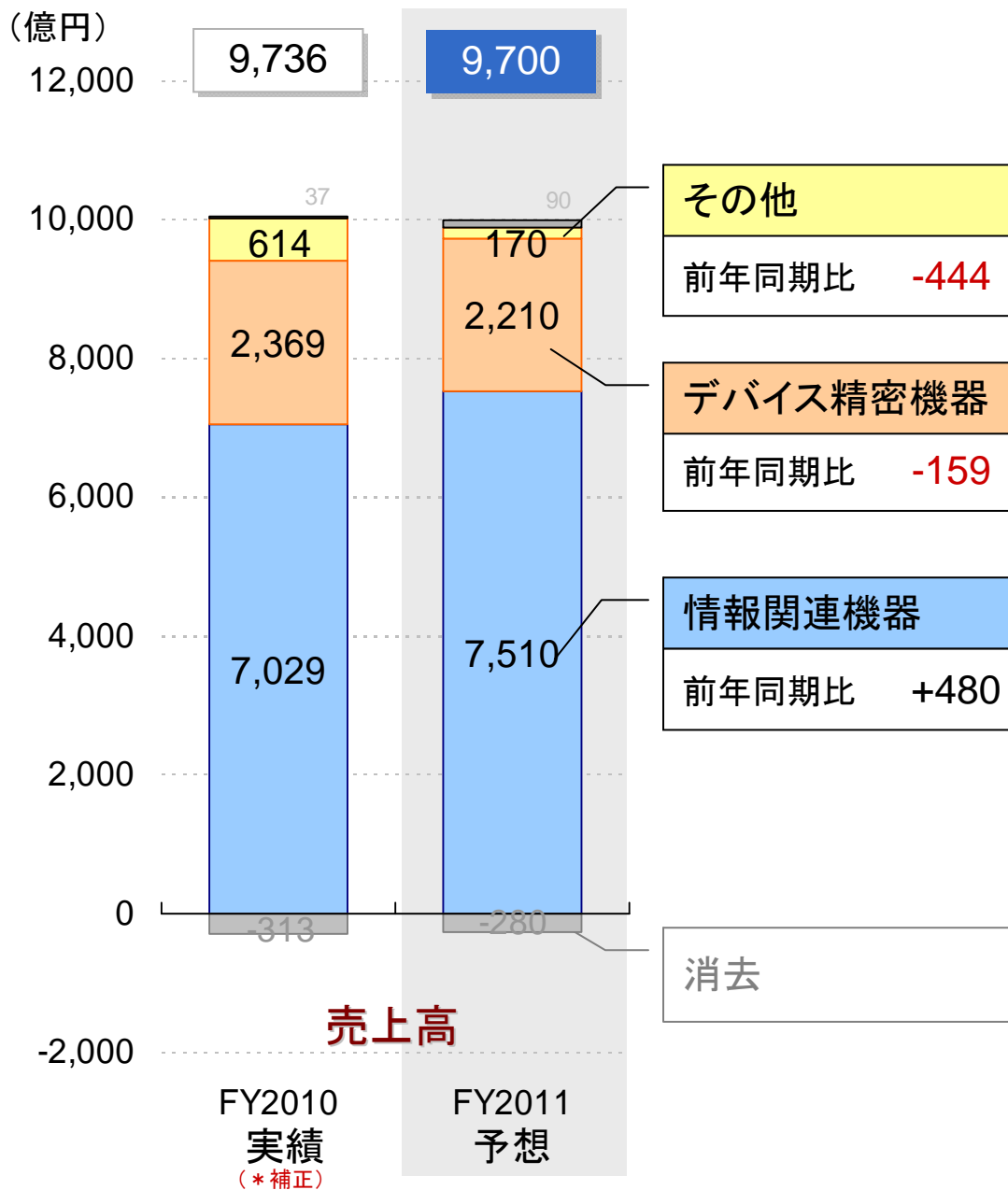
2011年度の業績予想については、震災に起因する以下の業績変動要因のうち業績予想公表日時点で把握可能な影響を加味している。

- ① 震災により直接被害を受けた生産設備における生産ロスの影響
- ② 原材料・部品等の調達リスクおよびそれに伴う生産変動リスク
- ③ 消費電力量削減に伴う生産設備稼働ロスによるリスク
- ④ 震災の影響に伴う景気変動や最終顧客の需要変動

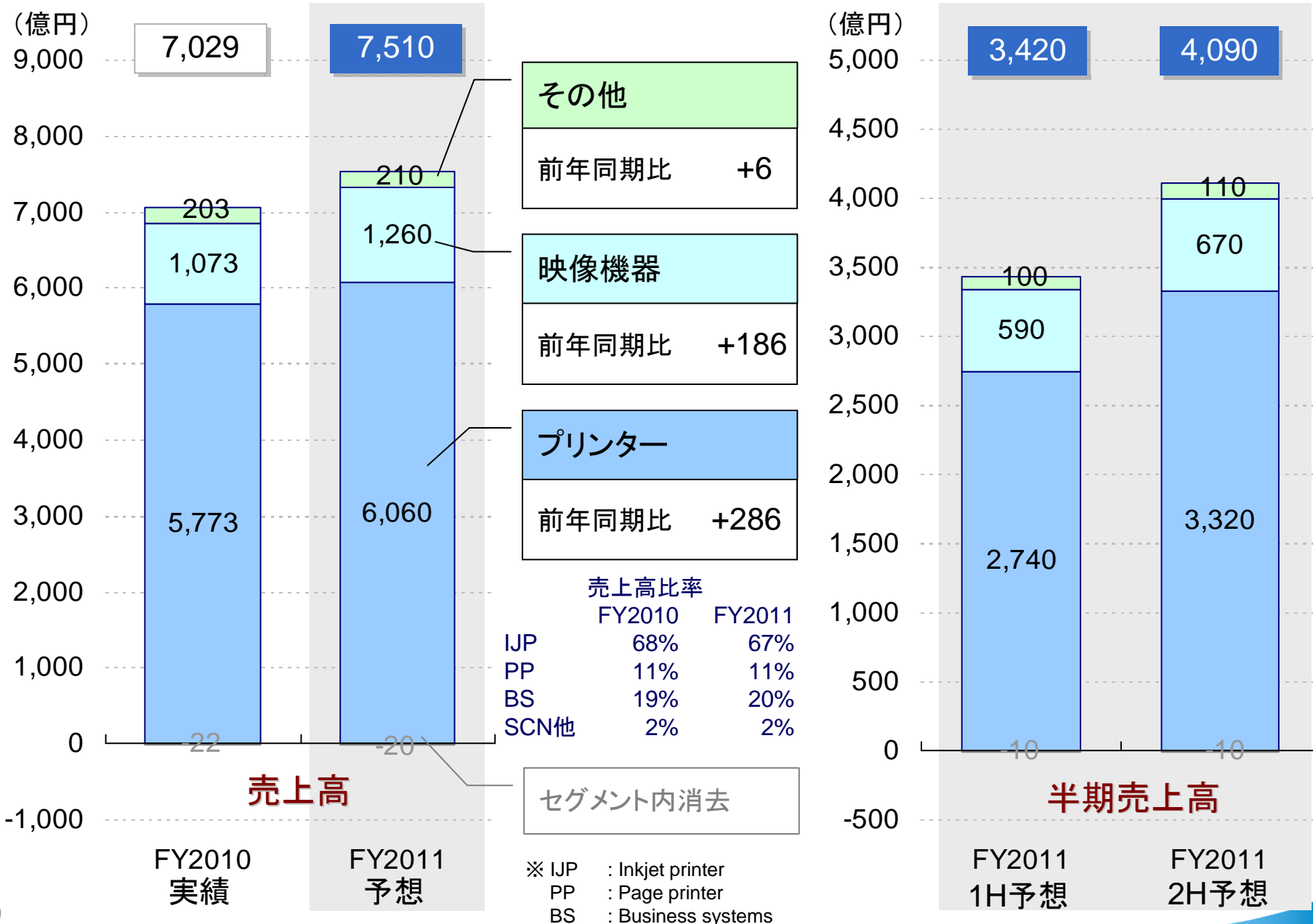
以上の要因のほか、今回の震災に伴う現時点では予測不可能な要因により業績が変動する可能性がある。

なお、これらの変動要因のうち業績悪化のリスクに対してはその影響を最小限に止めるための対応施策を反映し業績予想を策定している。

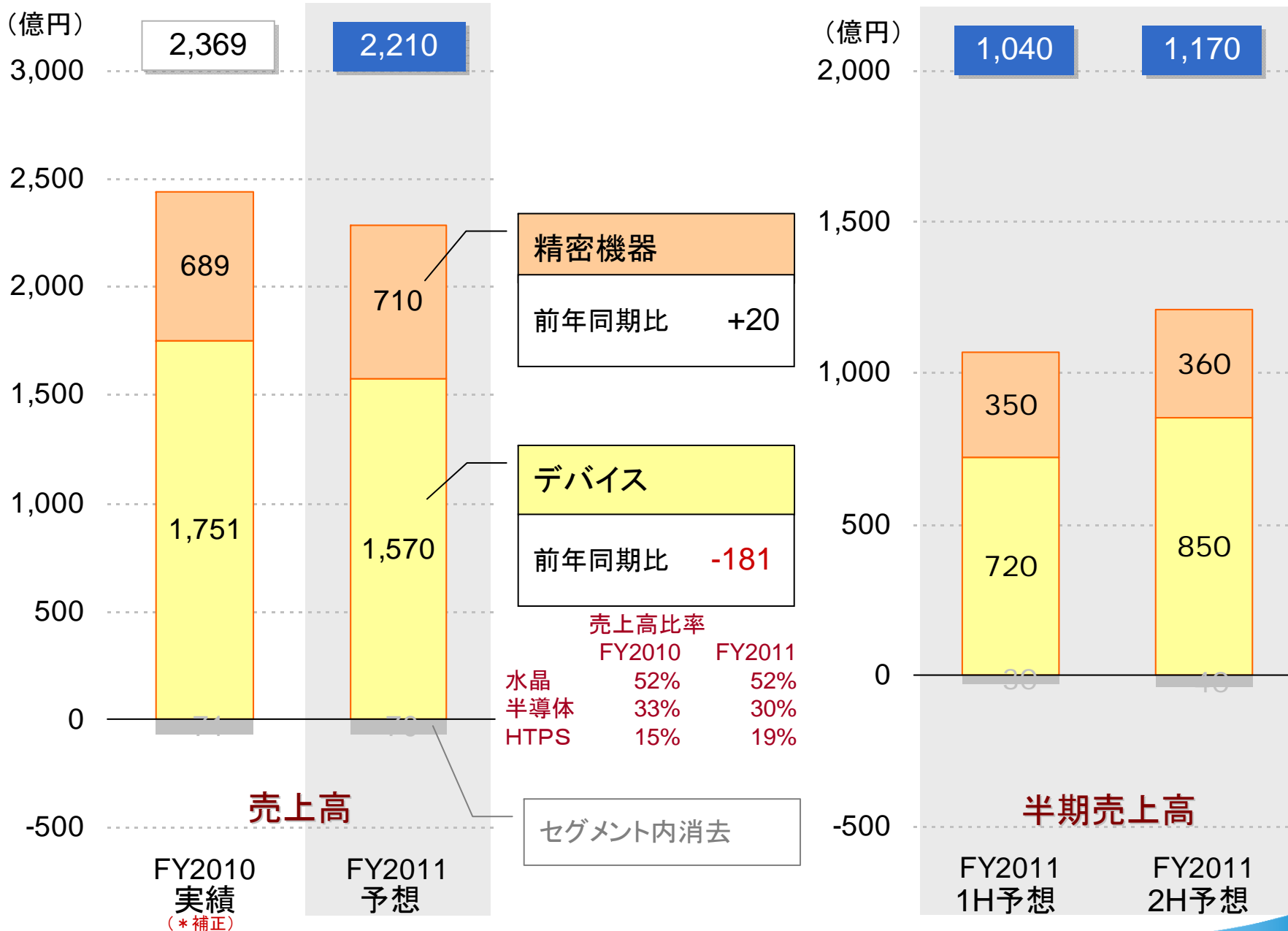
# 2011年度業績予想(売上高)▶事業セグメント別



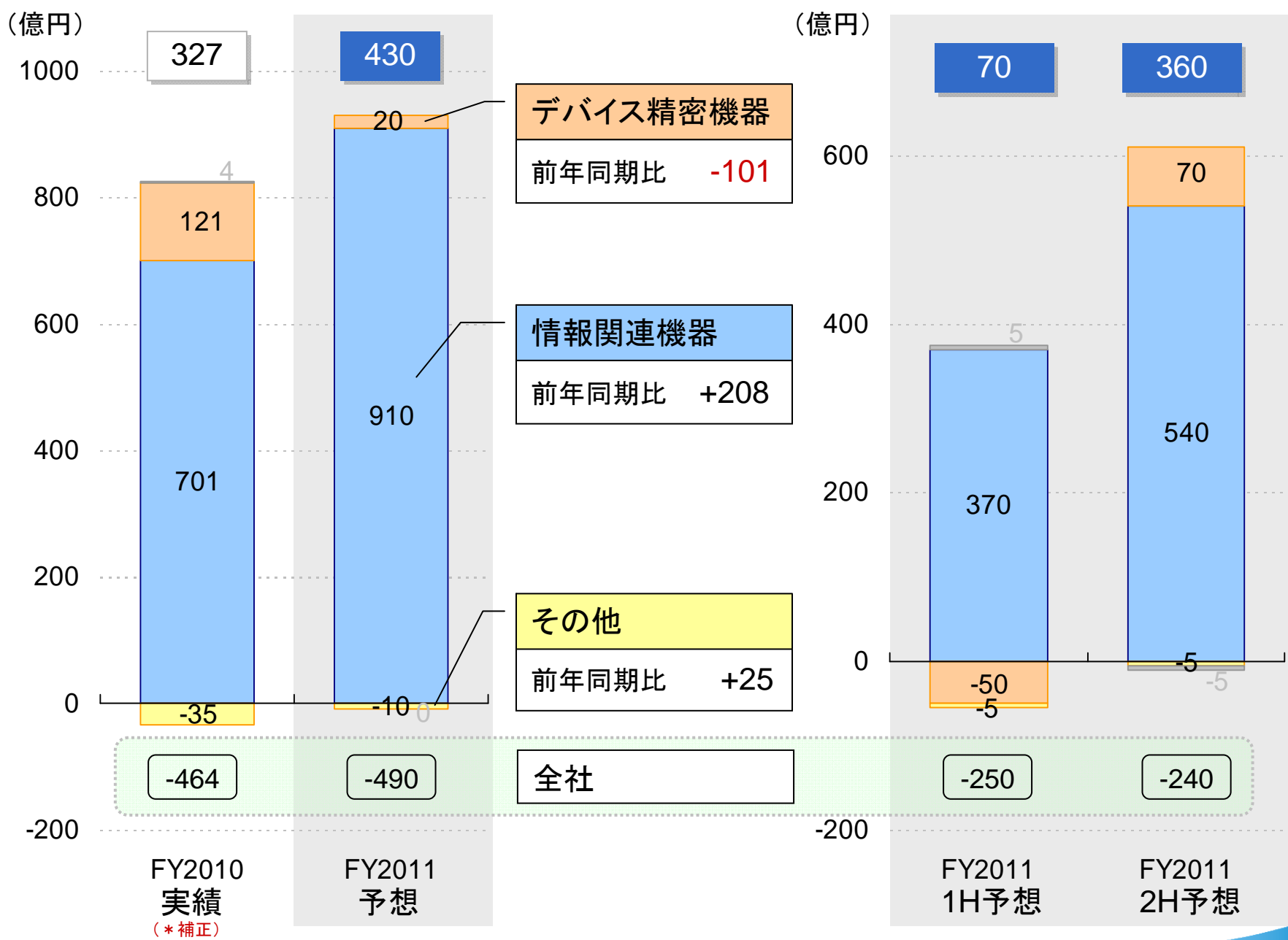
# 事業別売上高予想 ▶ 情報関連機器セグメント



# 事業別売上高予想 ▶ デバイス精密機器セグメント

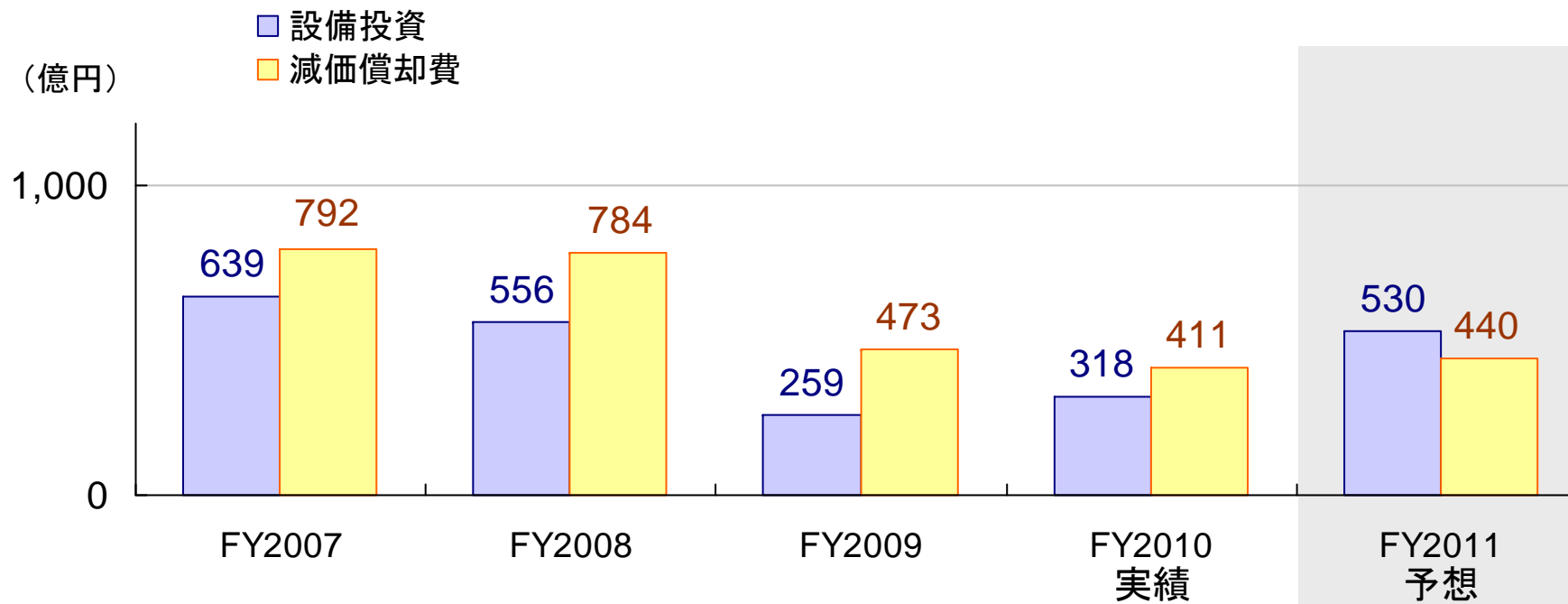


# 2011年度業績予想(営業利益)▶事業セグメント別



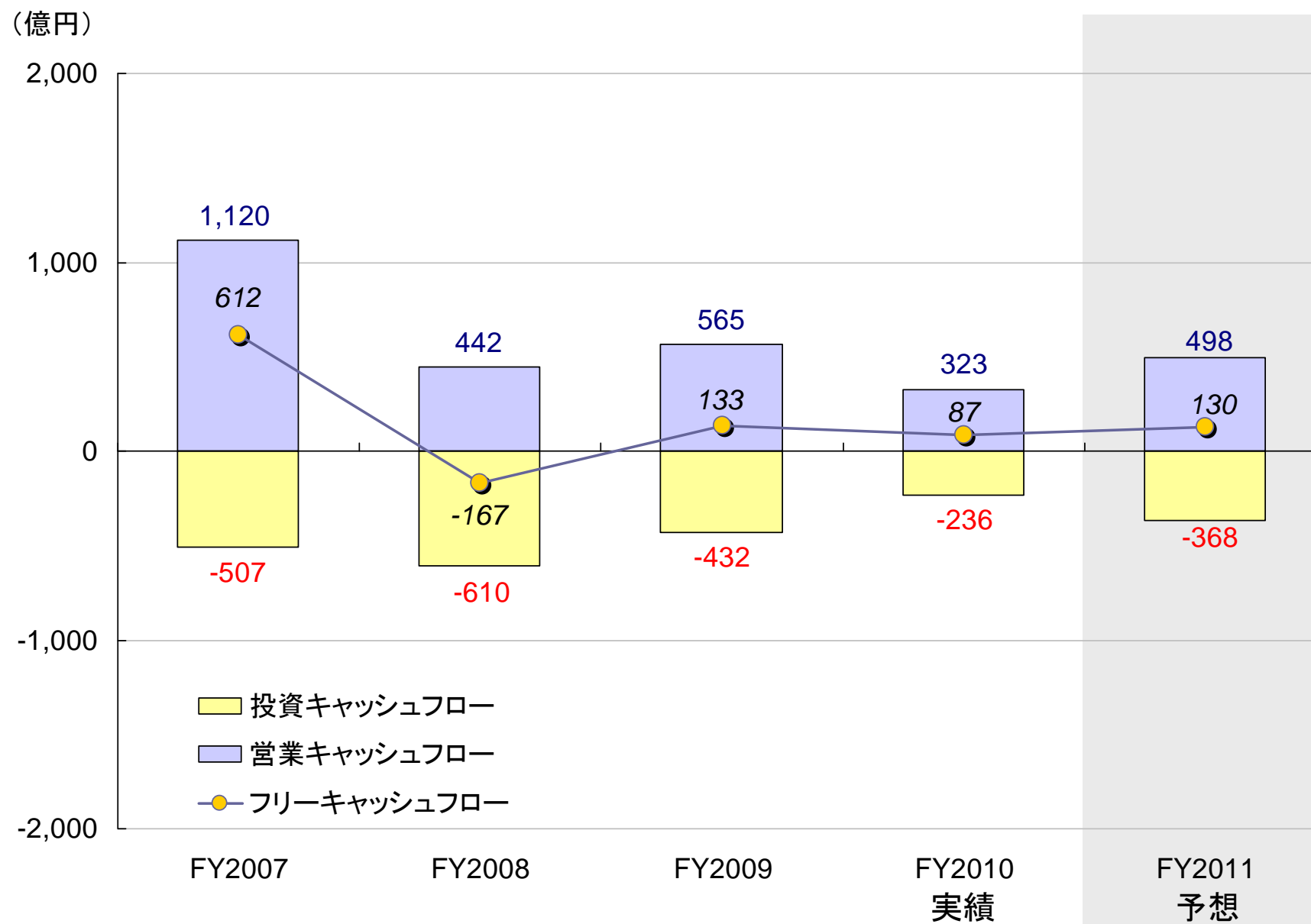


# 設備投資・減価償却費予想

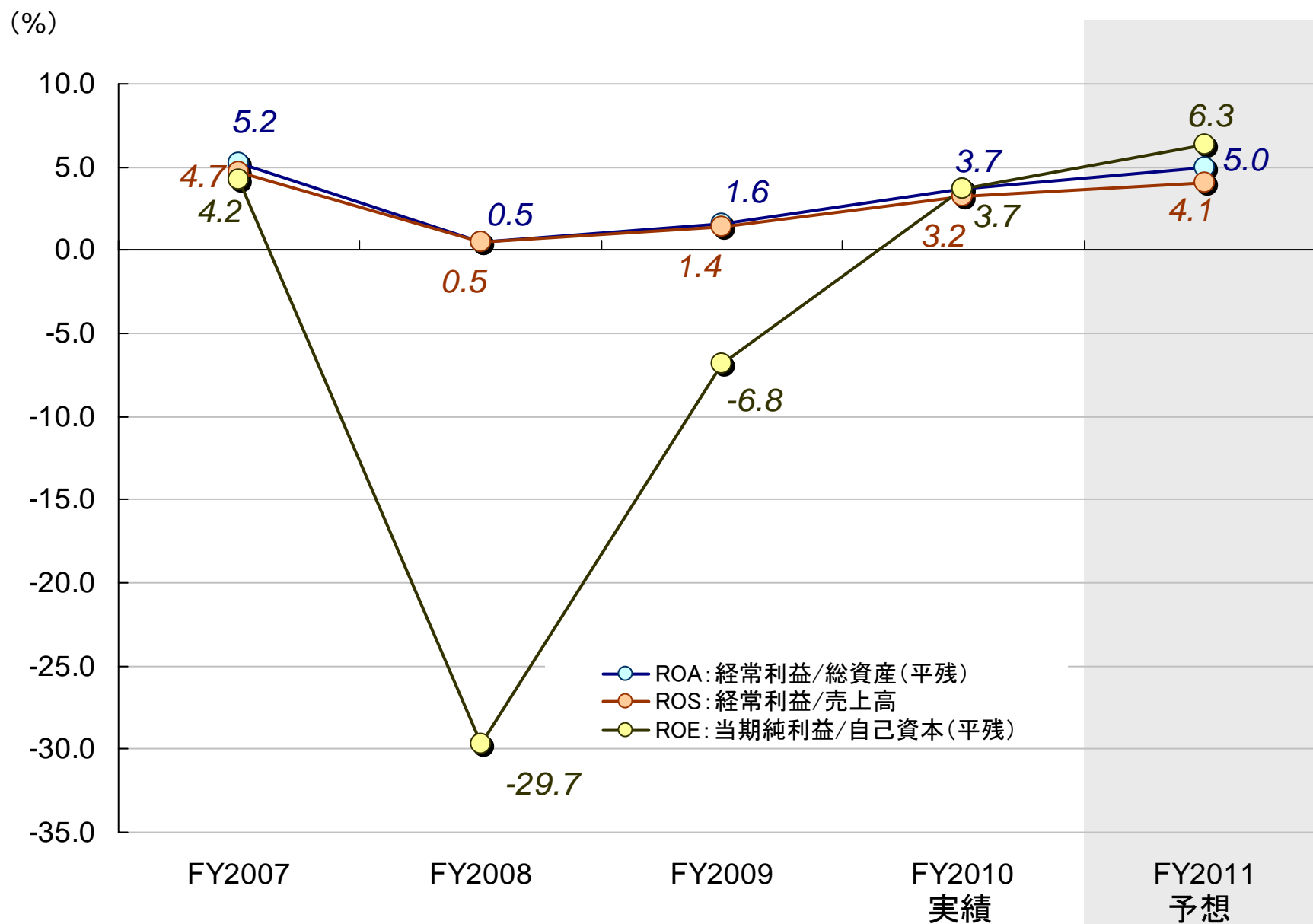


<セグメント別内訳>	FY2010実績		FY2011予想	
	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
情報関連機器	178	217	300	240
デバイス精密機器	110	132	140	150
その他・調整額	29	62	90	50

# フリーキャッシュフロー予想



# 主な経営指標の推移



**EPSON**  
EXCEED YOUR VISION